

上半期（1H25）決算サマリー説明資料



Internet Initiative Japan

株式会社インターネットイニシアティブ（IIJ）

プライム市場（証券コード：3774）

2025年11月7日

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

1H25決算概要

+%、YoY = 前年同期比
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

NW構造変化に伴い幅広い業種でNW・システム更改等の高需要継続 サービスインテグレーションモデル^(*1)で総合的な差別化発揮 中長期的な事業一層拡大フェーズへ

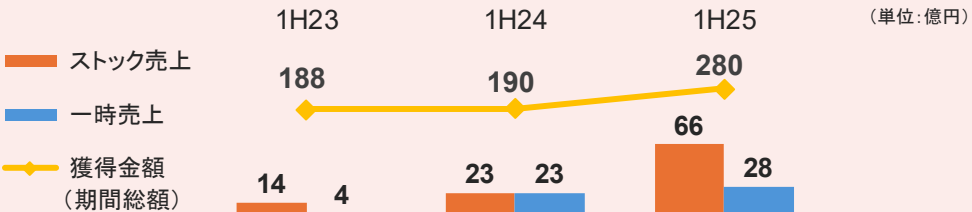
1H25業績

売上高	1,619.1億円	+10.1%YoY	NWサービス拡販強化注力で堅調に推移 SI需要旺盛で高受注水準継続
営業利益	153.9億円	+30.6%YoY	SI・NWサービス増収効果・退職給付引当金戻し 11.7億円・VMwareライセンス反動増等で大幅増益
当期利益	100.3億円	+34.2%YoY	為替水準による営業外損益影響はほぼなし(FY24末:149.52円/米ドル、1H25末:148.88円/米ドル)

今期主要アクションプラン

大型サービスインテグレーション案件注力

大型案件の売上計上額^(*2)・獲得金額推移



- ◆ 大型案件の進展に伴いストック売上が着実に増加
- ◆ 2Q25以降獲得大型案件 5件・約205億円

NWサービス SI

官公庁向け
NWシステム構築・運用
約160億円・18年間

ISPメールシステム基盤運用
約15億円・2年間

愛媛県向け
GIGAスクールインフラ更改
約10億円・6年間

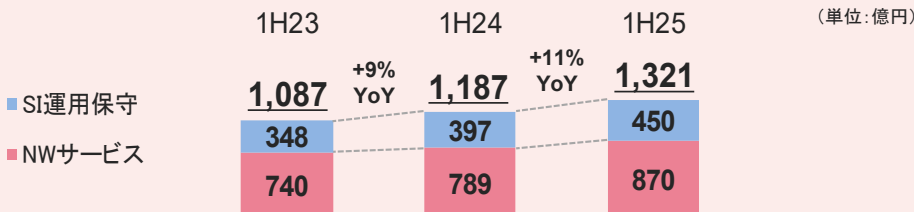
金融機関向け
セキュリティ強化
約10億円・5年間

サービス事業者向け
販売システム更新
約10億円

契約期間中の追加案件・
類似案件への横展開を期待

NWサービス積み上げ注力

ストック売上推移



- ◆ NWサービス拡販・SI運用保守好調でストック売上大幅増収 +11.3%YoY
- ◆ 今期ストック売上増加に向け既存サービス拡充・追加サービスを順次展開
(上期主要実績)

新規提供開始

IIJセキュリティドクター

企業のセキュリティ対策・運用を
IIJのセキュリティ専門家が総合的に支援

IIJクラウドエクステンジサービス for Prisma Access

IIJのプライベートバックボーンを経由し
Prisma Accessと顧客サイトを閉域接続

マルチプロファイルSIM2.0

1枚のSIMで国内2キャリアに接続可能
IoTデバイス通信の信頼性を向上

IIJ IaaS導入支援ソリューション

クラウドインフラ構築の
自動化・効率化を支援

機能強化

IIJ IoTサービス

デバイスへの簡易な
リモートアクセス機能を追加

IIJフレックスモビリティ サービス/ZTNA

SaaS宛先情報の自動収集機能等
追加でトラフィック制御を効率化

IIJセキュアエンドポイント サービス

Webアクセス制御・可視化機能を追加

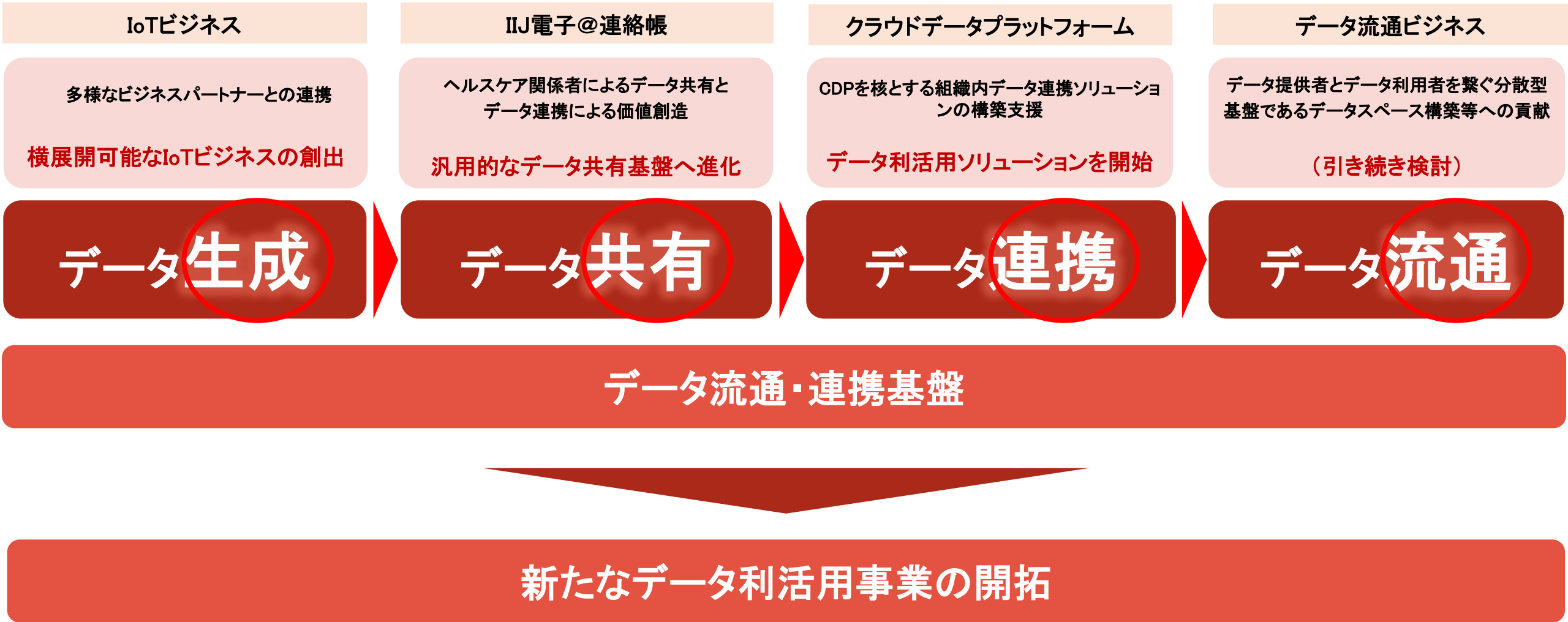
IIJマルチプロダクト コントローラサービス

ネットワーク構成図の自動生成と
トラフィックの可視化を実現する
「ネットワークマップ」機能を追加

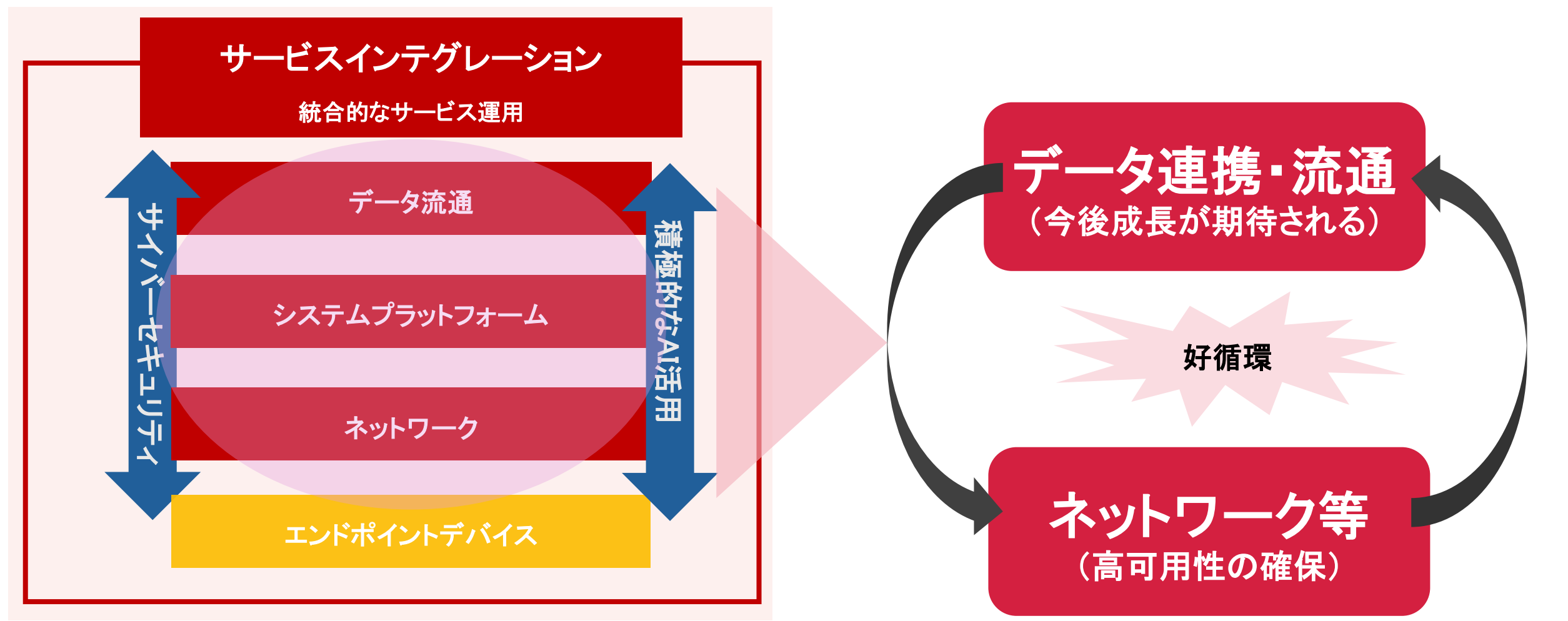
- ◆ ソニーセミコンダクタソリューションズ(株)と土壤水分センシング事業展開のIoT合弁子会社を設立合意 (IIJ最大85%出資、26年4月設立予定)
- ◆ ディーカレットDCP: ゆうちょ銀行がFY26中のトークン化預金取扱開始を検討(25年9月)、SBI新生銀行・Partiorと外貨取引に関する本格検討開始で合意(25年9月)

(*1) サービスインテグレーション: 自社開発のNWサービス群等を組み込んだSI、社内大規模NWの更改等で商取引機会・提案領域が大幅拡大
(*2) 大型案件(期間総額10億円以上)の売上計上額はFY22以降獲得の大型案件を記載

既存リソースをフル活用、エンハンスしながら将来的にデータ流通領域でのビジネスを見据える



“つなぐ”技術を、“活かす”力へ。IIJコア技術との好循環



データ生成関連主要Topics

① IIJセンシングデータマネジメントサービス

概要

- 個別構築が必要だったセンシング環境を、共通化されたサービスとして提供し、要件定義や構築の手間・コストを削減。2025年7月サービスリリース。

状況/Topic




需要堅調。大手製造業や小売業を中心に幅広い引き合いを獲得し、サービス導入が着実に進展。今後も親和性の高い業種を中心に拡販を継続。

③ ビジネスパートナーとの連携

概要

- 三菱HCキャピタル株式会社と製造業におけるカーボンニュートラルをめざす取り組みに必要なIoTセンサー、ネットワーク、および可視化プラットフォームを一括で提供する「省エネIoTパッケージ」を2025年4月リリース。

イメージ図



IoTプラットフォームの提供
(ネットワーク、クラウド、取得データを可視化するアプリケーション、初期構築)

三菱HCキャピタル
ファイナンス
アセットマネジメント
CO2可視化支援サービス

データ可視化プラットフォーム
(省エネIoTパッケージ)

IoTデバイスのファイナンス、アセット保有
CO2可視化支援サービス等の提供

サブスクリプション

工場

スマートメーター
センサーデータ
(集約して送信)

可視化アプリケーション
IIJ IoTサービス
WISE-PaaS
IoT Edge Intelligence

データ分析
打ち手の検討

工場

スマートメーター
センサーデータ
(集約して送信)

可視化アプリケーション
IIJ IoTサービス
WISE-PaaS
IoT Edge Intelligence

データ分析
打ち手の検討

IoTシステムの導入による
エネルギー使用量の可視化

工場内のエネルギー使用量を設備の稼働データや
エネルギー使用量を自動取得する仕組みを導入。
データはクラウドシステムに保存され、閲覧が可能

エネルギー使用量の
設備データ/生産情報との連携

工場内のエネルギー使用量を設備の稼働データや
エネルギー使用量を自動取得する仕組みを導入。
生産あたりのエネルギー使用量を分析を支援

CO2排出量の把握/
削減目標の策定

電力使用量からCO2排出量を算定することにより、
CO2排出量の削減目標達成を支援

② Ditto販売スキーム構築

概要

- インターネット非依存型のデータ同期技術「Ditto(ディット)」の国内販売にあたり相互協力。IIJが国内でのライセンス販売や導入サポート、ならびにマーケティングを推進。

状況/Topic



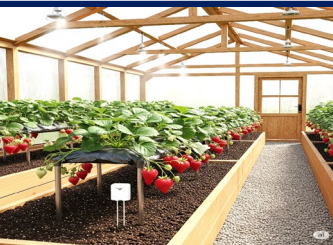
「Interop Tokyo 2025」にて、IIJが出展した「Ditto」が「Best of Show Award (IoT/エッジコンピューティング部門)」でグランプリを受賞。複数PoC進行中、来期以降受注拡大目指す。

④ ソニーセミコンダクタソリューションズと協業

概要

- ソニーセミコンダクタソリューションズ (SSS社) と土壌水分センシング技術を用いた農業支援サービスを提供する新会社を合併で設立する。土壌を正しく可視化することで、データを活用し、持続可能な農業を実現。

状況/Topic



SSS社の高精度な土壌水分センサーとIIJの通信技術やクラウドサービス、スマート農業の知見を活かし新規事業として立ち上げを行う。また、センサーから得られるデータを使用し自社サービスへの活用も図る（データ駆動型サービス）。

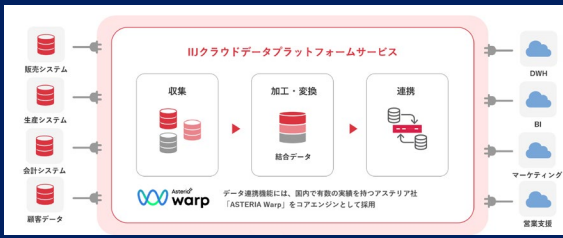
イメージ図

① IIJクラウドデータプラットフォームサービス(CDP)

概要

- 多様なデータ連携に対応する柔軟なクラウドサービス。あらゆるデータをかんたん・セキュアに連携(国産iPaaS)。コアエンジンとしてアステリア社「**ASTERIA Warp**」を採用。

状況/Topic



IIJ他サービスと組み合わせたクロスセルを強化。単体サービスでは実現ができなかったニーズに対する需要に応え、様々なユースケースを拡充中。

③ IIJ電子@連絡帳サービス

概要

- 地域の医療・福祉・介護・行政などの専門職をつなぎ、子どもから高齢者まで支援が必要な住民情報連携を実現する**多職種連携プラットフォーム**。

状況/Topic



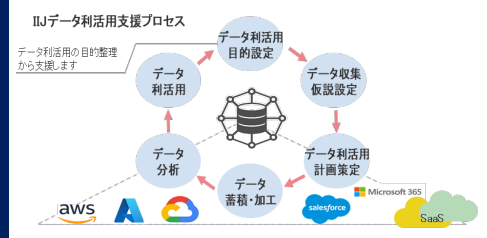
導入行政・地域が着実に増加中※。新たな採用として、北海道恵庭市、千葉県香取市を公開事例として発表。「防災」「救急」「教育」等、他の領域への活用拡大を引き続き目指す。 ※76 行政・地域(13都道府県)

② IIJデータ利活用ソリューション

概要

- 漠然とした検討段階から、計画の具体化・実現まで**社内データの利活用をワンストップで支援**。散在するデータを安全に収集し、最適な方法で活用できる環境をご提案。2025年8月リリース。

状況/Topic



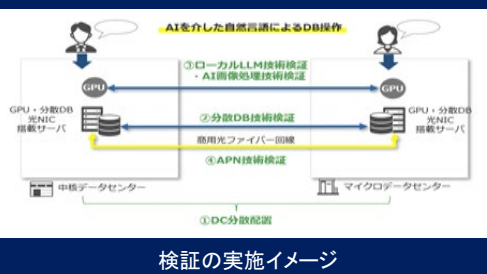
これまで個別に提供していたサービスやメニューを**パッケージ化**。既存IIJサービスやナレッジとのシナジーを打ち出し。引き合いも堅調。実績・事例作りに注力。

④ ワット・ビット連携への取り組み

概要

- 分散型デジタルインフラ構築・検証を目的とした実証プロジェクトを開始。政府が推進する「**ワット・ビット連携**」の考え方をベースに九州の再エネを活用し、地域に分散したデータセンターを連携させることで、電力とIT処理の最適なバランスを目指す。

状況/Topic



九州各地に**小規模DCを設置し、光通信技術(APN・光NIC)で直結**することで省電力化と高効率化を推進。分散データベース技術とGPUサーバを活用し、地域の再エネと連携した「九州版ワット・ビット連携」を目指す。

① 白井DCC 3期棟増設工事開始

概要

- 2026年度の運用開始を目指し3期棟建設に向け工事着工(2025年6月)。
カーボンニュートラルDCとして、外気を活用した冷却や、壁から直接冷気を送る仕組みなど、効率的な空調技術を導入。

状況/Topic



白井DCC 3期棟の完成イメージ

DXの推進やAI活用の進展に伴う、自社サービス・ソリューションの需要拡大に対応すべく、3期棟でサービス設備の更なる増強を行う。

② 松江DCPシステムモジュール棟運用開始

概要

- 島根県松江市で運営を行う自社データセンターにおいて昨年からの建設を進めていたシステムモジュール棟の運用を2025年6月より開始。

状況/Topic



松江DCPシステムモジュール棟 外観写真

環境省が進める脱炭素先行地域計画に島根県松江市の共同提案者として参画し、災害時にデータセンターの蓄電池を地域への電力供給インフラとして提供。

③ 超高効率AIアクセラレータシステム試験稼働開始

概要

- 経済産業省とNEDOの公募事業に採択された「超高効率AI計算基盤の研究開発」に取り組み、2025年7月からIIJの松江DCP等で直接水冷方式を採用したAIサーバ(MN-Core 2)の試験運用を開始。

状況/Topic



松江DCPIに設置された直接水冷のMN-Core 2サーバ30ノードおよび水冷設備

水冷固有の課題や冷却効率の検証を行い、空冷と水冷を組み合わせたハイブリッド冷却技術(AALC)も導入。2026年度からAIワークロードを用いた資源最適化の研究を進め、超高効率なAI計算基盤の実現を目指す。

④ マイクロデータセンター提供(ウクライナ)

概要

- JICA実証事業の一環でウクライナ国復興に向けた民間セクター参画促進プロジェクト実証事業業務として、ウクライナの主要インフラ事業者2社へマイクロデータセンターを2025年度中に合計4台提供。

状況/Topic



屋外設置タイプ「DX edge Hut」 屋内設置タイプ「DX edge Pro」

サーバ、電源、空調等、データセンターに必要な設備・機能を備え、屋内・屋外いずれの利用にも対応した小型サイズ(高さ約1～2m)DC。可搬性に優れ、短期間で導入でき、また遠隔操作にも対応しているため、人の立ち入りが難しい環境でも運用管理が可能。



日本のインターネットは1992年、IIJとともに始まりました。以来、IIJグループはネットワーク社会の基盤をつくり、技術力でその発展を支えてきました。インターネットの未来を想い、新たなイノベーションに挑戦し続けていく。それは、つねに先駆者としてインターネットの可能性を切り拓いてきたIIJの、これからも変わることのない姿勢です。IIJの真ん中のIはイニシアティブ

IIJはいつもはじまりであり、未来です。